

一般社団法人大日本武徳会 国際部武道講習会に臨んで

範士八段 川村 八朗

今年の国際部武道講習会（六月二十二日～二十七日）国際錬成大会（二十八日）

アメリカ二十 ロシア十三 フランス七 イギリス二 イタリア三
ベルギー一 ドイツ一

七ヶ国 四十七名参加

居合道五流派、智心流空手、柳流柔術

居合道に於いては五流派の技を短期間で覚えるのは大変な事であると思われるのだが、錬成大会で観る限り、何の懸念もなく見事な剣捌きで演武を披露されました。

昨年のロンドン大会と続いて居合道も世界中に広がり、技術は相当高くなっていると観ました。国際部武道講習会も六年連続となり、教える側としては最初懸念も有ったが、だんだんと良くなって、今年はこちらも勉強させられるものがありました。

ロシアチーム、アラバジル教士が率いる練習生達の、睡眠時間を惜しみ一生懸命練習した結果として、前日の技を朝一番に検証した事も有り如実に表れていました。先年までの講習では、ロシア虚実実戦武道がときたま顔を出していたが、今年は自分達の柔術の技を封じ込めて真剣に柳流柔術に取り組む姿が、毎日の練習と錬成大会で見事に

表現されました。

六年間練習を続けて来て、今年は一番良かったと竹田範士とも語り合っておる次第で、最後の錬成大会では、居合、空手、柔術、アメリカ女性剣士による剣道形、講習会で指導を受けた技を気迫を込めて演武をやり遂げた姿は印象的で清々しさを感じさせてくれました。

だが少し残念に思うことも有りました。居合でたくさん先生の方から指導に当たられたが、教えた技を最後の錬成大会で検証の場に出られなかった事、やはり自分で検証する事も先々に於いては勉強になるのではと思うのですが、少し寂しい思いでした。

一般社団法人大日本武徳会並びに国際部の益々の御発展を御祈ります。

真剣な眼差しでの国際部武道講習会

虚心流居合剣法宗家 範士八段 山本 楠城

この度、六月下旬に行われた国際部武道講習会、居合道の部の講師を務めさせていただきました。本年は総裁追悼事業の一環として実施され、武徳殿に集合、黙祷の後、居合道は柔術と共に武道センターが会場となりました。

居合道参加者は、イタリア（二名）、フランス（七名）、ベルギー（一名）、英国（二名）、アメリカ（二名）、ロシア（六名）、等、七カ国か